

第 11 回 WCAP 大会参加報告

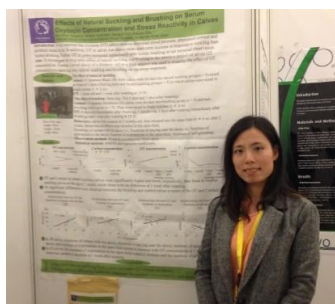
東北大学農学研究科 応用生命科学専攻 陳絲宇

2013 年 10 月 15-20 日、北京で開催された第 11 回 WCAP 大会に参加し、「Effects of Natural Suckling and Brushing on Serum Oxytocin Concentration and Stress Reactivity in Calves」というタイトルでポスター発表を行いましたので、ご報告させていただきます。

《発表の概要》

近年、哺乳動物や産業動物において快適性物質としてオキシトシン (OT) に関する多くの研究が注目されています。ラットへの OT 投与は、血圧やコルチゾルレベルの低下、ストレス耐性の上昇をもたらすことが報告されました。また、乳牛においてバケツ哺乳時に比べ、母牛からの吸乳時に子牛の OT は上昇することが報告され、当研究室では、肉用牛の成牛にブラッシングを長期間(18 日)処理することで、血中 OT 濃度が上昇することを明らかにしました。そこで、本研究では①自然哺乳およびブラッシングが血中 OT 濃度に及ぼす持続効果を調査し、②さらに、血中 OT 濃度と社会的ストレスと目される新規な他個体 (デコイ) に対する反応性との関係を明らかにすることを目的としました。結果①は、自然哺乳により、子牛の OT 濃度は上昇しました。また、②ウシにおいて OT はストレス耐性を高め、親和行動の促進や新規環境への探査の促進をもたらす可能性が示唆されました。

《発表の状況》



ポスター発表は初日から最終日までありました。毎日午前と午後各 45 分の休憩時間に発表者はポスターの前に立ちました。その他の時間に多くの口頭のプレゼンテーションを聞くことができ、よかったです。私の発表に対しては様々な国の方から質問をしていただきました。OT とコルチゾルの反応性や採血の方法について深くディカッションをすることができ、今後の研究に役に立つ有益な情報が得られました。特に、中国東北農業大学で動物行動学とアニマルウェルフェアの研究を行っている研究者らと多くの交流ができて、大変嬉しかったです。中国は広いですが、行動とアニマルウェルフェアの研究ごくわずかです。彼らとの交流で、中国のアニマルウェルフェアの現状をさらに多くの情報を手に入れることができました。

《大会の感想》

大会のプレナリーセッションは家畜の歴史から、集約畜産、アニマルウェルフェア、家畜の生産、遺伝育種、行動学様々な観点から畜産の研究の重要性が発表されました。今回は、特に<Animal Welfare: A World of Change>という講演を聞いたかったのですが、アメリカ政府閉鎖の関係で発表者が来られなかったので、講演はキャンセルされてしまい大変残念でした。講演内容これから 2050 年まで全人類の食糧のため、家畜、家禽を含め、米、トウモロコシなど 7bn から 10bn に増産しなければなりません。中国は畜産物の消費量は世界一ですが、需要の増加に伴い、生産性の改善や環境の汚染問題や動物性製品の安全・安心問題、抗生薬品問題を引き起こされています。そのため、持続農業、アニマルウェルフェア、安全生産が強くアピールされていると感じました。私は、畜産の研究の一員として、中国の畜産や世界の畜産に微力ながら貢献をできるように頑張りたいと思います。最後になりますが、本大会の参加にプレゼンテーションアワードをくださった日本畜産学会、そしてお世話になった先生方に対して、厚く御礼申し上げます。